

⑩実用新案公報

④公告 昭和44年(1969)4月22日

(全2頁)

1

④眼鏡つる広開角度矯正具

①実 願 昭42-49895

②出 願 昭42(1967)6月13日

③考 案 者 出願人に同じ

④出 願 人 室橋彦

東京都港区麻布飯倉片町16

代 理 人 弁理士 関谷幸雄

図面の簡単な説明

第1図は本考案矯正具の斜視図、第2図は眼鏡のつるを広げた態様の一部斜視図、第3図はつるに矯正具を取付けた態様を示す斜視図である。

考案の詳細な説明

眼鏡はそれを用いないとき、つるの部分を玉棒15の後面へ折畳めるようになつてゐるのが通例である。ところでつるはそれを開いて掛けたとき、側頭部に強く作用していると頭重、頭痛の原因となる欠点があり、反面広がりすぎて使用中にずれ落ちて正しい位置を保持しにくい欠点がある。特に広がりすぎた場合には玉棒の曲げを変えたりあるいは玉棒とつるとの接合面にゴムその他適当なものが挟み込まれたりして矯正していたものである。

この考案はこのような矯正具を改良したものでその矯正具1は第1図のように薄い金属板2の10板程度を合成樹脂接着剤で接着積層したものでその接着の程度は各板2がその一端より手ではがせる程度のものである。この矯正具1はその上下辺につるAの上下辺を抱えることができるような

2

張出片3, 3および4, 4を具え、中央には眼鏡枠の蝶番金具取付部に対する逃げ穴5もしくは適当な模様を施し、後半部にも意匠的突出部6を形成するものとする。玉棒とつるとの接合面5Bに挟み込まれる部分7には各板2毎に切断線8を施して、簡単にちぎり取ることができるようにしてある。

この考案の矯正具1は以上の構成にしてつるの広開角度に開き過ぎを生じたとき、これを第3図の如く挟み込み部分7をつると玉棒との接合面Bに当てて各張出片3, 3, 4, 4を折り曲げて取付ける。部分7の厚みが厚すぎる場合には部分7の薄板2を取り去ることによりそれを所望の厚みとすることができる。かくしてつるAは玉棒に対し部分7の所要の厚みの介在により広開角度を簡単に適正なものとなることができて、使用者への眼鏡のずり落ち、又は頭痛などの欠点をなくすることができるようになつたのである。

なお、この矯正具はこれをつるに取付ける場合のみに限らず、玉棒に取付けるようにしてもよいことは勿論である。

実用新案登録請求の範囲

薄金属板をはがすことができる程度に所要枚数を積重ね接着した板から成り、該板は眼鏡枠に取付けることができる部分と、玉棒とつるとの接合面へ挟み込まれる部分とを有し、挟み込まれる部分は積層した薄金属板を適宜ちぎり取ることができるようになつてゐることを特長とする眼鏡つるの広開角度矯正具。

